

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2393000050		
法人名	医療法人豊和会		
事業所名	グループホームプルミエールさなげ ソレイユ		
所在地	愛知県豊田市浄水町原山1番地54		
自己評価作成日	平成24年10月1日	評価結果市町村受理日	平成 25 年 2 月 6 日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	福祉総合研究所株式会社		
所在地	愛知県名古屋市中区百人町26 スクエア百人町1階		
訪問調査日	平成24年10月19日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

生活全般において利用者個々の生活リズムに添った支援を心掛けている。日常の家事や活動についても利用者主体で行っており、できる能力を最大限引き出せるよう努めている。活動プログラムも幅広く準備している。H23年度の目標達成計画では、趣味や楽しみに着目し生きがいにつながるよう支援した結果、生き生きとした姿が多くみられるようになった。H24年度は日常生活場面においてもできることが増え生活意欲の向上に繋がるよう支援している。運営全般について、介護老人保健施設に併設していることを活かせるよう心掛けている。職員教育も、合同で年間計画を立案し、継続的に実施し、老健専門職の指導や助言を受けることができる体制を取っている。外部研修にもできるだけ参加している。2ヶ月に1回活動内容をホームページで紹介している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

日常生活場面において、できる能力を見つけ出しそれぞれに利用者の目標を設定することによって、できる事が増え喜びの多い生活に繋げるよう支援している。1週間毎にケアカンファレンスを行ない評価して、運営推進会議でも取り組みの経過を毎回報告している。そうしたケアの結果自立して自宅へ帰った人がいる。防災訓練を毎月パターンを変えて行ない、反省会をして次回に繋げている。利用者と共に防災頭巾を作成し、訓練で活用している。梅坪台地区の民生委員24名全員が交流会に参加し、皆で手作りのおやつを作るなどして、地域との連携を深め、地域の人の認知症に対する理解に努めている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ステーションに理念・方針を掲示している。母体と同様の理念であるが、地域密着型サービスであるため関連機関との連携を加えた。毎朝のミーティングで理念を唱和し全職員に意識づけしている。	毎朝理念を唱和したり、カンファレンスで理念に添ったケアができているか確認しており、全職員が共有できている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地元の中学校体験学習や大学の実習などを積極的に受け入れ事業の内容を地域に理解してもらえよう努め、交流を深めている。地域住民による慰問等も積極的に受けている。	浄水自治区の民生委員全員の参加のもと家族交流会を行なうなど地域の人々に対する認知症の理解に努めている。地域交流活動も年々増えて、新しくオカリナや絵手紙のレクリエーションが加わった。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の各種学校の研修の受け入れなどを積極的に行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	活動状況を詳細に報告し意見を聞き、必要に応じサービス内容の改善を図っている。目標達成状況についても報告し意見を聞き、ケアに活かしている。	会議の中で防災に関する話題が多く、区長からの意見を参考に防災訓練を毎月行なっている。また、利用者の作品を展示してはどうかとの意見もあり、さなげ祭りで展示して色々な人に見てもらった。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	介護相談員の受け入れや資質向上連絡会への参加を通して、サービスの内容を伝え、協力関係が築けるよう努めている。	市の介護相談員が毎月来訪し、利用者と話をして相談員より情報をもらっている。グループホーム資質向上連絡会や西三河ブロックの認知症グループホーム連絡協議会、その他さまざまな研修に出席するなど市との連携を図っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	内部研修により身体拘束の弊害の理解に努め拘束は行っていない。スピーチロックについても研修を行った。地域に開かれた事業所にするため、また入居者に閉塞感のないよう昼間の玄関の施錠も行っていない。	定期的に身体拘束についての研修を行ない職員全員が理解し、身体拘束をしないケアを実践している。玄関の施錠もしておらず、利用者は職員が見守りの下自由に散歩や畑に出かけている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定期的に研修の機会を持ち、内容の理解や防止に努めている。申し送り、カンファレンス等でケアについて振り返り、適切なケアが提供できるよう話し合っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常生活自立支援事業・成年後見制度についての研修を繰り返し行い内容を理解している。必要時は活用できるように努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	重要事項説明書・契約書に権利・義務等の内容を明記し、支援相談員、管理者、計画作成担当者等が必要に応じ説明を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	介護相談員の受け入れや入居者、家族の運営推進会議への出席、ご意見箱の設置などを行ない、その結果を運営に反映させている。	家族の来訪時には必ず日頃の様子を伝え、ケアプランにも意見や要望を反映するようにしている。家族より運営推進会議の資料の見方がよくわからないとの意見があり、見やすく改善した。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の運営会議、週1回以上のカンファレンス、毎朝・夕のショートカンファレンス等の機会に意見を聴き、反映に努めている。	会議の場を多く持ち、職員の意見を聞きやすい体制を整えている。カーデックスの書式を改善したり、また、職員からの意見でホームで出来る防虫対策を定期的に行なうようになった。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年に2回の考課表の自己評価(道徳・技術・やる気面から総合的に評価する)等を通じて、職員の努力や目標の達成状況を把握し、職場環境の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	介護老人保健施設さなげと合同で年間計画を立て、知識や技術の向上に努め所感の提出などにより理解度も把握している。新採用者については技術チェックや指導も行っている。外部研修の機会を作っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	全国・愛知県グループホーム協会、豊田市介護サービス機関連絡協議会に入会し必要な研修会議等に参加している。協会支部の研修にも積極的に参加している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前面接を行い、利用者の状況を把握し、アセスメント等を通して本人の想いを受け止める努力をしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前面接を行い、アセスメント等を通して家族の想いを受け止める努力をしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	支援相談員・管理者が相談時点の関係者（居宅介護支援事業者等）と連携を取り適切なサービスを検討している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	生活を共にしながら、入居者のできる力を見つけその人の力が発揮できる場面を作っている。食事や掃除、野菜作りも一緒に行い、職員と支えあう関係作りに努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ケアプラン評価時、面会、家族交流会の機会に、本人の日頃の状態をこまめに報告・相談し相互に意見・情報交換を行い家族にも本人を支える役割を持ってもらう。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居者の生活歴を把握し、スタッフ間での情報の共有に努めている。情報をもとに面会や外出・外泊を機会に馴染みの人や場所との関係が途切れないよう支援している。	好きな短歌を続ける環境を整え、全国短歌大会で受賞した人がいたり、外泊、外出を家族の協力のもと行なったりと今までの馴染みの関係が途切れないよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	作業やレクリエーション等を通じて関わる機会が多く持てるよう支援していく。人間関係の把握に努め、日常生活場面でもお互いに助け合い生活できるような介入を心掛けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要に応じて支援相談員、管理者が他のサービスの紹介やその後の状態の確認を行っている。希望時には、相談等にも応じている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	生活を共にしながら入居者の言葉や行動からその人の思いを理解するよう努めている。申し送りや週1回のケアカンファレンスにて情報を共有している。家族の協力も得ている。	利用者は編み物でバッグなど作品作りや俳句を作ることなど、一人ひとり年間目標があり、それに向けて無理強いせず、見守りしながら、時には励ましたり、悩みを聞くなどして目標達成にむけ職員がサポートしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者現況調査票、利用希望調査票、その他家族・本人からの情報により入居者の今までの生活について把握している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者の日々の生活状況のカルテ記録、申し送り、週1回のケアカンファレンスにて入居者の現状把握に努めている。その結果を計画の立案や実施に生かし、能力を最大限引き出す努力をしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居前から本人・家族の希望、本人の現状等を確認し、アセスメントにより本人の状態の詳細を把握し本人に必要な支援を多職種(老健の協力も得る)で考え、本人本位のプランの作成ができるよう努めている。	毎週1回は全利用者のケアカンファレンスを職員間で行い、それを踏まえて毎月1回家族を含め見直しをして評価し、現状に即した介護計画が作成されている。また、介護計画は誰がみても分かり易く作成されている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	アセスメントやカルテ記録をもとに週1回のケアカンファレンスを行い、生活状況等の情報を共有し個々の状況に合わせてプランを見直している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	母体のアドバイス等を受け、その状態や状況にあった対応などを行い、ADLの保持や生活の活性化及び認知症の進行防止に努めている。たえず家族の状況の変化にも気を配るようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議のメンバーに民生委員になっていただき、必要なアドバイスを受けている。交流会にも参加していただいている。バリアフリーのストアにも協力いただき自由に買い物ができる環境を整えている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族の承諾のもと協力医の往診を毎月受けている。希望により他の医療機関へ受診される際は必要な情報を提供し連携を図っている。必要に応じて受診に同行している。	月1回協力医の往診を受けている。利用者の専門医の受診は家族の協力を得ているが、協力医との連携はホーム看護師が仲介して適切な医療を受けている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	管理者が正看護師であり母体や主治医と連携を取り、利用者の健康状態の把握に努めている。また別に複数の正看護師が週1回以上勤務し、全身状態を把握し健康管理を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は、サマリーを作成し情報提供を行う。入院先のソーシャルワーカーと母体支援相談員、管理者が入院早期から連絡を取り連携に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重要事項説明書に方針をあげ、また、重度化や終末期になる前に出来るだけ早い段階から本人や家族と話し合い、主治医も含め全員で方針を共有している。	重度化や終末期に向けた方針は家族に説明して同意を得ている。職員は利用者の状態変化を敏感に察し看護師が常駐していることで、重度化になる前段階で、家族、医師と話し合いを持ち、利用者や家族と情報を共有して最善策に努めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的な母体との合同研修等で対応を学び、急変時対応ができるよう努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	毎月グループホーム内で避難訓練を実施している。隣接の会社に災害時の応援を依頼し了承を得ている。非常災害備蓄を3日分確保している。手作りの防災頭巾を準備した。年2回母体と合同での訓練を行う。	毎月、地震、火災、夜間想定など変化をつけて自主訓練を行い、訓練後は反省会をして次月の訓練に活かしている。職員も利用者も避難がスムーズに行えるようになってきている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人情報については本人、家族の了承を得て規程に沿った取り扱いをしている。プライバシーや高齢者の尊厳について研修を実施し、職員の意識が高まるよう努めている。	職員は接遇がゆき届いており、利用者を尊敬して言葉使いも丁寧である。書類など鍵をかけて保管しており個人情報保護にも努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	その能力や思い・希望が十分表出・発揮できるような環境作りに努めている。入居者の希望を聞きながら生活できるよう、自己決定の場を多くしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日課は基準として設けているが、起床、就寝、入浴時間等決めず個々の生活リズムに合わせて支援している。活動等の参加は無理せず本人の興味や能力に応じて促している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣類の選択や着替えを自分のペースでできるよう支援している。化粧を好む方には本人の好きな化粧品を一緒に購入し、自分でできる環境を作っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	準備から片付けまで入居者と一緒に行い一人ひとりの力を引き出し活かしている。入居者の意見を取り入れながら献立作りも行っている。畑で収穫した野菜もメニューに取り入れ一緒に調理している。	食材は、ネット宅配を利用して新鮮な食材を提供している。利用者と調理をしたり栗きんとんなどおやつ作り、ジャム作りなど、食を楽しむ支援が多数ある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事メニューは、管理栄養士が確認し、栄養のバランスに注意している。こまめな水分摂取を心掛けている。入居前の習慣に沿ってコーヒーやお茶などを提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、実施している。全入居者の口腔状態を把握し、みがき残しがある方は、スタッフが洗うようにしている。義歯を使用している方は夜間洗浄剤につける等の支援をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を用いて排尿・排便パターンを把握し一人ひとりに合わせて声かけや介助を行っている。トイレで排泄できるよう努めている。	利用者の排泄パターンを把握しており、さりげなく声をかけてトイレでの排泄に努めている。また、行動や表情で察してトイレに誘う時もある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個々の排便状況を把握している。食事、内服や水分摂取に注意し、特に便秘傾向にある入居者様には乳製品の摂取を心掛けている。また運動量を増やすよう努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	家庭に近い環境作りのため、毎日、夕方から夜間の入浴を実施している。週3回以上は必ず入浴できるよう支援している。入浴のない日は、足浴を行なっている。	入浴はゆず湯や菖蒲湯など季節を取り入れている。利用者は入浴拒否は見られず、一人ひとりゆっくり入浴している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人の自然なリズムで生活できるよう消灯、起床時間を決めず一人ひとりの生活習慣を尊重している。夜間は、1時間ごとに巡視を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の作用や副作用・用量について表を作成しカードックスに貼りスタッフが確認できるようにしている。薬手帳も活用し服薬の管理に努めている。内服による症状の変化にも注意している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	昔の経験を活かし生き生きと生活できるよう、個々の能力に応じて環境を整え、畑仕事や絵手紙など個別に支援している。誕生日会の昼食にはその方の好物を提供している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	屋外活動(畑仕事・散歩)等を取り入れ外に出る機会が多くもてるよう支援している。本人の希望に合わせた買い物や地域の公園にも出かけている。家族の協力を得て本人が希望する食事処などへ外出している。	利用者は雨天を除いて、隣接する施設のカラオケ、俳句、陶芸などの教室に出向いたり、ホームの畑の水やり、草取りなど日常的に外出している。花見などの四季を感じる外出支援やまた、寿司などの外食や買い物にも出向いている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居者の希望に添って売店へ行きおやつ等買っている。スーパーへ買い物にも出かけている。買い物や喫茶では、自分で支払いができるよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話や手紙は、本人が希望した時に家族と連携を取り必要な支援を行っている。書いた手紙は本人と一緒に投函している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間に不快な音や光はみられない。また玄関、リビングなどに花や、季節感のある物を飾っている。リビングの飾り棚等を利用し作品展示を行っている。入居者同志がコミュニケーションがとりやすいよう席の配慮をしている。	栗や季節の草花が生けてあり、季節を感じることができる。トイレ、浴室などは臭いもなく清潔であり、また、歩行訓練用に距離がわかるテープが張ってあり、利用者は練習が身近にできて励みにもなっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下の端にベンチをおいてある。またリビングのテレビの前に大きなソファを設置し、入居者同士がゆっくり会話できるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族の写真や手作りカレンダーを貼っている。使い慣れたたんすやテレビ、小物、時計なども希望で持参いただき居心地の良い空間になるよう配慮している。	居室は、紙皿に本人が書いた絵を描いた飾りが居室の入口にかけてあり個性的であった。ベランダには洗濯物が干してあったり、観葉植物が飾ってあるなど、居心地のよい居室となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりの能力に応じて、自室がわかりやすい工夫している。トイレや浴室もわかりやすいよう大きく表示している。スペースも広くとってある。物の配置にも配慮している。		

外部評価軽減要件確認票

事業所番号	2393000050
事業所名	グループホームプルミエールさなげ

【重点項目への取組状況】

重点項目①	事業所と地域とのつきあい（外部評価項目：2） 自治区の民生委員の方全員の参加のもと家族交流会を行なって、認知症を理解してもらう場を積極的に設けている。地域交流活動も年々増え、今年は絵手紙のレクリエーションが加わり、利用者も楽しんで作品作りを行なっている。地元の中学校の体験学習なども引き続き受け入れて地域との交流を深めている。	評価 ○
重点項目②	運営推進会議を活かした取組み（外部評価項目：3） 2ヶ月ごとに開催し、区長や民生委員、地域ケア支援センター職員、家族、利用者などたくさんの参加を得られている。質問や意見も多くあり、意見や提案には速やかに対応している。毎回利用者の目標達成に向けた取組みについての経過報告も行なっている。	評価 ○
重点項目③	市町村との連携（外部評価項目：4） 市の介護相談員が毎月来訪して情報交換したり、豊田市介護サービス向上連絡会や介護職員研修などに参加するなど、市との協力関係が築けるよう努めている。	評価 ○
重点項目④	運営に関する利用者、家族等意見の反映（外部評価項目：6） 家族交流会にはたくさんの家族の参加を得て、ホーム内で収穫した果物や野菜でおやつ作りなど行なっている。交流会の活動内容はホームページでも更新している。また、さなげ便りを毎月発行し、行事報告や活動報告をしている。家族からの意見や要望には速やかに対応し、ケアプランにも意見や要望を反映するように努めている。	評価 ○
重点項目⑤	その他軽減措置要件	評価
	○「自己評価及び外部評価」及び「目標達成計画」を市町村に提出している。	○
	○運営推進会議が、過去1年間に6回以上開催されている。	○
	○運営推進会議に市町村職員等が必ず出席している。	○
総合評価		○

【過去の軽減要件確認状況】

実施年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度
総合評価	○	○	○	○		

1. 外部評価軽減要件

- ① 別紙4の「1 自己評価及び外部評価」及び「2 目標達成計画」を市町村に提出していること。
- ② 運営推進会議が、過去1年間に6回以上開催されていること。
- ③ 運営推進会議に、事業所の存する市町村職員又は地域包括支援センターの職員が必ず出席していること。
- ④ 別紙4の「1 自己評価及び外部評価」のうち、外部評価項目の2、3、4、6の実践状況（外部評価）が適切であること。

2. 外部評価軽減要件④における県の考え方について

外部評価項目2、3、4については1つ以上、外部評価項目6については2つ以上の取組みがなされ、その事実が確認（記録、写真等）できること。

外部評価項目	確認事項
2. 事業所と地域とのつきあい	(例示) ① 自治会、老人クラブ、婦人会、子ども会、保育園、幼稚園、小学校、消防団などの地域に密着した団体との交流会を実施している。 ② 地域住民を対象とした講習会を開催若しくはその講習会の講師を派遣し、認知症への理解を深めてもらう活動を行っている。
3. 運営推進会議を活かした取組み	(例示) ① 運営基準第85条の規定どおりに運用されている。 ② 運営推進会議で出された意見等について、実現に向けた取組みを行っている。
4. 市町村との連携	(例示) ① 運営推進会議以外に定期的な情報交換等を行っている。 ② 市町村主催のイベント、又は、介護関係の講習会等に参画している。
6. 運営に関する利用者、家族等意見の反映	(例示) ① 家族会を定期的（年2回以上）に開催している。 ② 利用者若しくは家族の苦情、要望等を施設として受け止める仕組みがあり、その改善等に努めている。 ③ 家族向けのホーム便り等が定期的（年2回以上）に発行されている。

（注）要件の確認については、地域密着型サービス外部評価機関の外部評価員が事実確認を行う。